

つくしんぼ



このたびの東日本大震災により被災された皆様に、
心よりお見舞いを申し上げます。
この災害により多くの方が犠牲になられたことに深く哀悼の意を表し、
一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。



学校法人北里研究所 常任理事
北里大学北里研究所病院統括
土本 寛二

去る3月11日の東日本大震災により、日本は、過去に経験したことのない被害をうけ、現在復旧・復興に向けての取り組みが力強く開始されています。北里研究所も海洋生命科学部、釜石研究所が被災し、皆様には大変ご心配をおかけいたしました。その対応を順次行い、海洋生命科学部の新年度の授業も相模原地区にて5月より無事に開始しております。その際の多くの励ましのお言葉や見舞金等の支援は私どもには大変力強いものでした。心より感謝申し上げます。

さて、本法人は昨年より、平成24年の北里大学50周年、平成26年の北里研究所100周年に向け、北里柴三郎記念展の開催など周年事業を開始しております。これを機会に、私たちは、研究所発祥の地・白金キャンパスにて、北里研究所病院を中心に東洋医学総合研究所統合医療の推進)や臨床薬理研究所(臨床研究の推進)、さらに薬学部をはじめとする北里大学医療系4学部との強い連携、融合により、『臨床・研究・教育』が一体となる総合医療機関を目指して、皆様一人一人の豊かな生活のお手伝いに努めます。

当院は昨年の3月、新病院開院10周年のお祝いの会を山田好則前院長のもとに開催し、今年の4月には渡辺憲明病院長をはじめ、新執行部のもとでスタートいたしております。このつくしんぼの発行も震災、管理部門の再編等により遅れましたことをお詫びいたします。



北里大学北里研究所病院
病院長 渡辺 憲明

4月より病院長を拝命いたしました。すでに3ヶ月が経過しましたが、いまだに緊張感が続いております。歴代の病院長に引き続き、病院理念の「心ある医療」の実践を基本とし、「臨床・研究・教育・危機管理」の4本柱を堅持し、「選ばれる病院、信頼される病院」づくりに一層努力いたします。

さて、今年度の事業計画ですが、これは昨年私もスタッフの一員として立案したものであり、きちんと実行する所存です。

まず、臨床についてですが、当院は急性期病院として運営しておりますが、どのような疾患であろうと皆様に満足していただけるよう努めてまいります。現在進んでおりますことは、①「がん診療体制の確立」です。標準治療を行うことを基本に、診療科や職種間に垣根のない当院の特色を生かし、チーム医療体制で構築してまいります。つぎに②「電子カルテの導入」ですが、担当副院長のもとで順調に進んでおります。また、教育・研究体制についても充実・発展に努めます。

現在、最も重要な計画として、白金キャンパスの総合医療体制の推進を目指し、「白金臨床試験・臨床研究実施体制検討委員会」「白金統合医療推進検討委員会」で議論を進めています。また、薬学部との研究面での連携も見据え、先日は「薬学・病院ジョイントセミナー」を開催いたしました。

最後に、当院のモットーである「対話(コミュニケーション)を大切にする病院」として、皆様のご意見を大切にし、皆様に『満足していただける病院』をつくることをお約束いたしました。以下、新しいスタッフの抱負に引き継ぎます。

皆様安心して受診して
いただく病院を作るために



副院長
循環器内科部長
情報管理センター長
赤石 誠

2011年4月より北里研究所病院の副院長を拝命いたしました。日本が未曾有の災害のために大きく沈下しつつある時に、病院の舵取りチームの一員になったことは、責任重大であると考えております。私たちが発信して、日本を強く浮上させたいと意気込んでおります。

その中で、被災地の方への後方支援、患者様の受け入れ、電力不足の懸念、東京の患者様の不安など多くの不安要因に十分に配慮し、社会から、皆様から信頼される病院として強く、患者様をお手伝いいたします。そして、社会不安の中でも安心して療養できる環境を常に提供できるように最大の努力をする所存です。

私の副院長としての業務担当は、①教育、②情報管理（コンピュータシステム）、③診療技術部です。簡単に抱負を述べます。

①院内教育としては、医学的な知識、技術の研修のみならず、当院の基本である医療の心（北里医学の基本）の教育の実践をさらに徹底していきたいと思っております。これが、心ある医療の原点

であると信じているからであります。皆様の叱正をいただきつつ、病院の心を育てる教育を行ってまいります。

②来年5月より、当院も電子カルテを導入します。そのための準備を行っております。電子カルテにより、科学的な、そして迅速な医療を提供できるようにする一方、患者様と正面に向かい合った医療を提供できる電子カルテの創造を目指します。

③放射線科、検査科、リハビリテーション科などの多くのコメディカルが所属する部署が診療技術部です。患者様と接する機会が多い部署であり、より専門的な知識、技術を要求される部署でもあります。この部署が医師、看護師、薬剤師などと有機的に連携して初めて本物のチーム医療ができます。皆様の温かいご支援が、診療技術部を育てますのでよろしくご鞭撻のほどお願い申し上げます。



まずは北里研究所病院へ



副院長
胃腸センター／IBDセンター長
医療社会事業部長
芹澤 宏

私は、このたび診療と医療連携を主たる担当とする副院長を拝命いたしました。外来でも入院でも診療の質はもろろのこと、外来待ち時間対策など細かいことも含め、地域の皆様や、医師会や企業の健康管理担当の方々に満足していただけるべく、渡辺病院長をはじめとした執行部とともに信頼される病院を築けるよう頑張っていきたいと思っております。

私の北里研究所病院勤務は今年で丸20年となります。今でもなつかしく思い出されるのが、旧病院は施設も古く（当時から来院されていた方もご存知でしょう）、作りも木造に近く、真夏の暑い日では病室の空調もきいているのやら、といった状態でした。当初はこんなところでずっと仕事をするのか

なあ、という印象でしたが、ここまで仕事を続けられているのは、それを補って余りあつた職種の隔てのない家族的な職員同士のつながりと、来院される方々の北里研究所病院に対する期待と信頼感のおかげです。皆様からの「ありがとう」が喜び、励みになりました。その後病院の建物は新しくなり

ましたが、モノは変わってもひとが変わるわけではありません。昨今は日常のいろんなことが便利になって、情報もワンクリックで得られますし、メールで事を済ませることもできますが、信頼関係は目をみて、耳で声を聞いて、表情をうかがいながら相手を理解しようとするところから始まるはずですよ。

医療をする側、受ける側も、ただ「病気をなおせばいい」とか「なおしてくれればいい」といった簡単なやりとりだけではさびしい限りです。

この3月、私たちは歴史に残る悲惨な大惨事を経験し、多くのものを失いましたが、数多くのエピソードからひとを大切にするという気持ちまでは失われてはいないことがうかがわれます。医療に携わる私たちにとって当たり前のことなのですが、その実践は必ずしも容易ではありません。当院の基本理念「心ある医療」は職員の意識はもちろん、皆様のご協力あってこそ実現されます。

「まずは北里で診てもらって」と期待していただけの病院とすべく私も重責の一端を果たさなければと思っております。末長い皆様からの北里研究所病院への熱く、暖かいご支援をお願いいたします。



安心して医療を受けられる 場にするために



副院長・外科部長
浅沼 史樹

この度、新たな執行部の一員として副院長に就任しました。担当は、外科系診療（渉外―外科系）、危機管理（医療安全管理室室長兼務）、医師会、機器購入です。今まで外科部長として担当科の活性化をいかに図るかということに専念してきましたが、今後は外科系として病院全体を視野に入れた運営に、新たな気持ちで取り組む所存です。

今回の執行部の交代は、早くも4月直前の東日本大震災という大きな試練に遭いました。3月11日の地震発生時には手術室で2回の大きな揺れを経験し、无影灯が1メートルほどずれてしまいました。その間手術の手を休めていましたが、揺れがおさまってからは手術をそのまま継続し、手術自体への影響はほとんどありませんでした。その後は、緊急手術を優先し、物品の供給が間に合わないなどの理由で一部延期になった手術もありましたが、翌週からはほとんどの予定手術を普段通りに行うことができました。これも、当院の建物が免震構造であり、災害時のマニュアル等、普段からの危機管理へ

の対応の成果だと確信しました。危機管理は、前山田病院長、現渡辺病院長が取り組んで来られたことを引き継ぎます。危機管理とは、裏返せば、安全管理と同義語でもあり、日常の診療を安全という観点から見直すことでもあります。当院を受診される患者様がより安心して診療を受けられるよう、精一杯努力したいと思っています。

外科系診療は、前任の阿部副院長から引き継ぎます。当院はDPC導入の急性期病院であり、手術を中心とした外科系診療科（特に外科、整形外科）の活性化が、病院の経営に大きく影響します。若手医師の安定した供給、手術室の効率のよい運営をはかり、外科系各科の先生方がそれぞれの専門性を活かした働きやすい環境作りを目指したいと思っています。外科系各科はいずれも専門性が高く、先生方の得意とする分野や技術の情報発信を行い、地域の医師会との連携を深め、また、機器購入の面からも支援して行きたいと思っています。担当する分野のそれぞれの情報発信をしっかり行い、院内の各部署の担当者とのスムーズな人間関係を構築し、将来当院を支えていくスタッフの方々働きやすい環境作りをめざしたいと思っています。ご協力をよろしくお願ひします。

年月の経過から 改めて感じたこと



副院長・看護部長
朝穂 美記子

まずは、東日本大震災で被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、残念ながらお亡くなりになられた方々へのご冥福を心からお祈り申し上げます。そのような中、看護部は例年同様に4月に28名の新採用看護職員を迎え、平成23年度をスタートすることができました。例年のことではありますが、これまでに無く「普通」のありがたさを感じ、今私達にできること、やらなければならぬことをしっかりと胸に刻み、今年度を大切に過ごしてまいりたいと思っております。

さて、副院長として私に与えられた責務は「看護担当」です。私自身、北里研究所病院に勤務し通算で22年目になります。たまたま住居に近いというだけで、何の目的も無く短期間のつもりで足を踏み入れた病院でした。あれから26年、一時4年間ほど他病院で勤務する機会を得、もう一度一緒に仕事をしたい方達がいる北里研究所病院に戻ってきたのが4年前です。何がそこまでこの病院にひきつけるもの、魅力があるのか？

私が勤務した頃、北里研究所病院は地域の皆様からも職員からも「アットホームな病院」と言われていました。あの頃の私はこの言葉の意味するところが理解できず、何でもうやむやにするようなイメージでこのアットホームという言葉があまり好きではありませんでした。しかし、自分でもびっくりするくらいの年月が経過し、この言葉の意味するところが何となくわかってきたように思います。病院理念でもあります「心ある医療」がまさにその意味するところではないかと今は思えます。相手への心づかい、優しさ、思いやりの心を持って看護させていた

事ができるそのような職場であってほしいと思います。笑顔があれば、物事を常に前向きに考えられます。そして職員が楽しく仕事ができることで、患者様に幸せをお届けすることができると思っています。

患者様の擁護者であり、代弁者である看護職員がチーム医療の中で果たさなければならぬ役割は、「チームの調整役」であり、「チーム医療のキーパーソン」でなければなりません。そのような役割を果たす為、北里研究所病院の職員である事に誇りを持ち、品格を持った自律した看護職員を育成してまいりたいと思います。そして、患者様に納得していただける医療、看護の提供に努めてまいります。今後とも、益々のご支援、ご指導ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。

●新任医師紹介●

平成23年1月1日付



婦人科医長
杉本 到
(すぎもと いたる)



皮膚科レジデント
大内 健嗣
(おおうち たけし)

平成23年4月1日付



消化器内科医長
井口 清香
(いのくち さやか)



精神科医長
山本 宏明
(やまもと ひろあき)



循環器内科レジデント
前川 恵美
(まえかわ えみ)



内科レジデント
小林 祐子
(こばやし ゆうこ)



内科レジデント
松下 美紗子
(まつした みさこ)



外科レジデント
井上 正純
(いのうえ まさずみ)



整形外科レジデント
歌島 大輔
(うたしま だいすけ)



眼科医員
鈴木 亜鶴
(すずき あづ)



耳鼻咽喉科部長
武井 泰彦
(たけい やすひこ)



形成・美容外科医長
鳥居 博子
(とりい ひろこ)



形成・美容外科医員
氷見 和巳
(ひみ かずみ)



麻酔科医長
井上 敬
(いのうえ けい)



麻酔科レジデント
針馬 日出美
(はりま ひでみ)



臨床研修医
梅田 智子
(うめだ さとこ)



臨床研修医
林 侑太朗
(はやし ゆうたろう)



臨床研修医
馬場 里英
(ばば りえ)



臨床研修医
寺田 裕子
(てらだ ゆうこ)



病理診断科レジデント
末盛 友浩
(すえもり ともひろ)

平成23年5月1日付

●退職医師紹介●

平成22年12月31日付
平成23年3月31日付

栗原 佑一(くりはら ゆういち)

熊谷 直樹(くまがい なおき)

齋藤 義正(さいとう よしまさ)

石井 靖久(いしやい やすひさ)

有田 龍太郎(ありた りゅうたろう)

山口 徹(やまぐち とおる)

大高 良基(おおかた よしき)

小松 秀郎(こまつ しゅうろう)

小森 景子(こもり けいこ)

奥井 文子(おくい まり)

三輪 桜子(みわ さくらこ)

小原 浩(おはら ひろし)

加藤 杏奈(かとう あんな)

武井 裕史(たけい ひろし)

編集後記

平成21年7月を最後に、「つくしんぼ」を皆様にご提供することができませんでした。大変申し訳ありませんでした。病院のご意見箱をはじめ、来院される方々からも「廃刊になったのか」とナマのご意見をいただき、その度に「心苦しい」と、待たせている方がいる。との思いに奮起され、ようやく新たに再出発することができました。

今回の内容はつくしんぼの再出発にふさわしく、病院長をはじめとする執行部の挨拶が主体となっております。今後も引き続きこの紙面から様々な北里研究所病院の情報を発信してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(田中)

つくしんぼ第一五七号

平成二十三年七月一日発行

北里大学 北里研究所病院

東京都港区白金五―九―一

TEL (三四四) 六一六一

編集発行責任者 田中正貴

URL <http://www.kitasato-u.ac.jp/hokken-hp/>